

福島ひまわり里親プロジェクト

ひまわり新聞

13

福島ひまわり里親プロジェクトオリジナル

“ひまわりハチミツ”ができました！



福島の子どもたちが全国の皆さんへ
感謝の気持ちを込めて…

NPO法人チームふくしま
福島ひまわり里親プロジェクト

TEL.024-563-7472
HP:<http://www.sunflower-fukushima.com/>

メルマガ登録



2018年度より ひまわりの種の送り先が変わります!



福島ひまわり里親プロジェクトすかがわ事務局
(農家の店アックス須賀川店)

福島ひまわり里親プロジェクトがスタートした二〇一一年より約七年間、福島県須賀川市の「農家の店アックス須賀川店」の一部を「福島ひまわり里親プロジェクトすかがわ事務局」として、チームふくしま理事 藤島康広を中心に全国の里親さまから送って頂く種の受付業務を行ってまいりました。

二〇一八年度より、種の受付業務が福島県二本松市の特定非営利活動法人和(なごみ)へ移行することとなり、福島へ送っていた種は、特定非営利活動法人和(なごみ)にて里親さまの種を受け付け、その後和の利用者さまが

七年間に渡りすかがわ事務局へ送って頂いた種の受付件数は約三千件にのぼり、多くの方々のご支援・ご協力のおかげで今日この復興に向かう福島に力・元気が繋がっていることを再確認いたしました。心より厚く御礼申し上げます。

今後とも変わらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

スムーズな種の選別作業、パック詰め作業に務め、翌年の春に福島県の皆さまへきぼうの種をお届けできるよう連携を図ってまいります。

移行は、二〇一八年十月十一日より開始いたします。今後種を福島へ送っていただく場合は、下記の新しい送り先までお送りいただき、お間違えのないようお願い申し上げます。



福島ひまわり
里親プロジェクト
www.sunflower-fukushima.com

種の送り先
受付開始: 2018年10月~
〒969-1403
福島県二本松市渋川字大森越122
特定非営利活動法人和 内
福島ひまわり里親プロジェクト事務局
TEL 0243-23-4551
※送り間違いのないようお願い申し上げます。

全国の里親さまからの種の受付はわたしたち和(なごみ)にお任せください!
種の選別、パック詰めを行い、福島県の皆さまへ「きぼう」の種をお届けします。



特定非営利活動法人 和(なごみ) 利用者の皆さま



2017年度 受賞ご報告



主催: 「新しい東北」官民連携推進協議会
受賞: 特定非営利活動法人チームふくしま

概要: 被災地の産業復興に向けた地域産業の創出の機運醸成を図ることを目的に、被災地における地域産業の復興や地域振興に資する事業を表彰。



主催: 福島民報社
受賞: 特定非営利活動法人チームふくしま

概要: 多彩な企業活動をはじめ森林資源を活用した産業創出、農林水産業の六次化、そして伝統工芸なども応援し、住み続けられる地域づくりを目指す。

「新しい東北」
復興ビジネスコンテスト2017
企業賞 損保ジャパン日本興亜賞

第3回ふくしま産業賞 特別賞

2017年度、「福島ひまわり里親プロジェクト」の活動が様々な分野から評価され、表彰をいただきました。プロジェクトに参加する里親さまの嬉しい受賞のご報告もいただいています。

これもひとえに、これまでプロジェクトにご参加いただいている累計25万人、1,500校以上の里親さま、福島県の協力者さまのお力添えによるものと心より感謝申し上げます。



主催: プルデンシャル生命
受賞: 唐津市立浜玉中学校(佐賀県)

概要: ボランティア活動に取り組む12歳から18歳の青少年を支援するプログラム。このプログラムは、活動に優劣をつけるものではなく、賞を通してボランティア活動について情報交換できる場を提供し、誰もが気軽に、そして自然にボランティア活動に取り組める社会環境を創ることを目指す。

「第21回ボランティア・スピリッツ賞」
九州ブロック コミュニティ賞



ひまわりが繋いだ 思いやりと、防災を学ぶ 「福島の今。復興支援の話」

今年も沢山のご依頼をいただき講演させていただきました



プロジェクト発足後より全国各地で行わせていただいている講演活動ですが、おかげさまで多くの教育機関・団体様からのご依頼をいただき、東日本大震災当時の事や福島県・東北の現状、プロジェクトを通じて生まれた物語などお話をいただいています。

今後プロジェクトを通じて風化対策・防災教育に繋がる復興支援活動を進めて参ります。

●講演会のお申込・お問い合わせ
NPO法人チームふくしま
info@sunflower-fukushima.com

ひまわり甲子園2018 全国大会

～震災があったからこそ生まれた物語～

後援：福島復興局 / 福島県 / 福島県教育委員会 / 福島市教育委員会 / 二本松市 / 田村市
南相馬市 / 浪江町 / 広野町 / 川俣町 / 富岡町 / 川内村 / 福島民報社 / 福島民友新聞社

2018. **3.11**

エルティ ウェディング・
パーティ エンポリウム

全国の志高きプレゼンターの紹介

企業部門 関東・東海地区代表

株式会社長坂養蜂場 (静岡県)



静岡県でミツバチの持つ可能性を商品に込めて、お客様の"健やかな毎日"のお役に立つことを目標に掲げ、養蜂を営んでいる企業。プロジェクトには、2012年から毎年参加し、ひまわりを栽培しています。店内には、カプセルの中にながさかのマスコットキャラクター「ぶんぶん」が描かれたバッチが入っているガシャポンを設置しています。その代金をすべて東日本大震災で被災された方々へ義援金として寄付するチャリティー活動を行っています。
「自分たちにできること」を続けて東日本、福島県を応援している長坂養蜂場さんのこれまでの取り組み、そこから生まれたエピソードを発表します。

全国子ども部門 中部・関西地区代表

松阪市立阿坂小学校 (三重県)



三重県松阪市にある小学校。2017年8月に開催された、「ひまわり甲子園中部大会」で、入学してからこれまでの取り組みについて発表しました。学年が上がるにつれて、ひまわりを育てる意味、福島県のことや震災の被害についての理解を深めています。また、福島県の子どもたちとの交流も行い、知識・体験を積み福島に寄り添い、思いやりの心が培われた子どもたち。
今年6年生となり、これまでの先輩たちが育ててきたひまわりを育てる番が訪れ、一生懸命育ててくれました。今年1年間を通して取り組んだ内容、そして、ひまわりの活動を通して感じた想いを発表します。

教育部門 信州・北陸地区代表

佐久穂町立佐久穂小学校 教諭 酒井 啓喜 (長野県)



長野県南佐久郡佐久穂町立佐久穂小学校の教諭。2017年5月に長野市で開催された「第5回ひまわり講演会」ではパネルディスカッションのパネラー、2017年11月に塩尻市で開催された「ひまわり甲子園信州・北陸大会」では発表者として登壇。佐久地方の理科の先生を中心にプロジェクトはどんどん広がりを見せ、今では先生の間でひまわりに関するある内容の会話が交わされるまでになりました。その内容とはどんな内容なのか、そして、佐久地区でのプロジェクトの広がりや、佐久地区の学校の取り組み、実際にひまわりを育てる中で起こった子どもたちのエピソードを発表します。

全国子ども部門 中国・四国地区代表

出雲市立大津小学校 (島根県)



島根県出雲市にある小学校。2015年からプロジェクトに参加し、ひまわりを育てています。2017年11月に開催された、「ひまわり甲子園中国・四国大会」で、今年度の取組について発表しました。
福島ひまわり里親プロジェクトとはどんな活動なのかを知り、何のためにひまわりを育てるのかを学びながら、ひまわりを育てました。そして、ひまわりを育てる中で、福島への関心・興味が高まってきた児童がたくさんいました。
その取組や学んだことを校内の学習発表会で披露しましたので、今回はその発表を映像で紹介します。

福島子ども部門 東北地区代表

子どもがふみだす復興体験 プロジェクト (福島県)



福島県教育委員会・子どもがふみだす復興体験応援事業の一環で、福島ひまわり里親プロジェクト活動に参加する福島の子どもたちを募集し、小学生2名、中学生1名、高校生3名の計6名が今年度の活動に参加しました。
子どもたちは、福島県の里親学校である鯖江市立立待小学校との交流、ひまわり栽培、ひまわりハチミツの商品開発などの活動を体験・経験する中で、福島から全国へ感謝を伝えるとともに、福島の魅力を確認・発見し、地元福島への誇りへと繋がっていきました。
それぞれの取り組みを通して、気づいたことや学んだことを発表します。

全国子ども部門 九州・沖縄地区代表

唐津市立浜玉中学校 (佐賀県)



佐賀県唐津市にある中学校。生徒会役員が中心となってひまわりを育て、校内だけでなく、地域の小中学校、地域の方々にも協力してもらうために協力依頼の手紙を出したり、直接訪問したりとプロジェクトの活動を広めています。また、応援メッセージ入りの封筒やカード、復興支援ののぼり等を制作し、福島への種を送付するときに一緒に送っています。
このほかにも、様々なボランティア活動を行っており、2016年度には「第11回SYDボランティア奨励賞」小・中学校の部で優秀賞、2017年度は「第21回ボランティア・スピリットアワード」九州ブロックのコミュニティ賞を受賞しました。



チームふくしまは、二〇一七年五月、福島県内の若手経営者を中心とした若手、有志、有志で構成されたNPO法人「福島復興・復興支援プロジェクト」を設立し、福島復興支援活動に取り組むことになった。

「日本全国」をキーワードに、企業や個人、団体など、幅広い分野から、復興支援活動に取り組むことになった。その中心となるのは、福島県内に住む若手経営者を中心とした若手、有志、有志で構成されたNPO法人「福島復興・復興支援プロジェクト」だ。

「日本全国」をキーワードに、企業や個人、団体など、幅広い分野から、復興支援活動に取り組むことになった。その中心となるのは、福島県内に住む若手経営者を中心とした若手、有志、有志で構成されたNPO法人「福島復興・復興支援プロジェクト」だ。

ひまわりを福島の復興のシンボルに

今回の取り組みは、NPO法人「チームふくしま」の復興支援活動の一環として、福島復興支援活動に取り組むことになった。

「日本全国」をキーワードに、企業や個人、団体など、幅広い分野から、復興支援活動に取り組むことになった。その中心となるのは、福島県内に住む若手経営者を中心とした若手、有志、有志で構成されたNPO法人「福島復興・復興支援プロジェクト」だ。

東北レポーター 復興への道を

今回の取り組みは、NPO法人「チームふくしま」の復興支援活動の一環として、福島復興支援活動に取り組むことになった。

「日本全国」をキーワードに、企業や個人、団体など、幅広い分野から、復興支援活動に取り組むことになった。その中心となるのは、福島県内に住む若手経営者を中心とした若手、有志、有志で構成されたNPO法人「福島復興・復興支援プロジェクト」だ。

ヒマワリ畑で愛誓う

田村市大崎町の愛誓う公園で、サンフラワーウェディング挙式が行われた。県内のカップルがヒマワリ畑に集まり、結婚の誓いを果たした。

「日本全国」をキーワードに、企業や個人、団体など、幅広い分野から、復興支援活動に取り組むことになった。その中心となるのは、福島県内に住む若手経営者を中心とした若手、有志、有志で構成されたNPO法人「福島復興・復興支援プロジェクト」だ。



8月17日(木) 福島民友新聞

取材・文 小泉知子(社会起業家支援する機関「ガラン」からつと) 撮影 山崎 隆

広野中1年が読み聞かせ 紙芝居で心つなげよう

小中 大久保 & 大開小1年に



12月9日(土) 城南新報

PHP 2017年8月号 No.831 掲載

ヒマワリの種56キョ贈る

イオン、マックスバリュ中部とイオン労組



12月27日(水) 福島民報

ヒマワリの種役立てて

赤磐・桜が丘中 生徒栽培、福島へ贈る



「ヒマワリの種を育てよう」という思いで、赤磐市桜が丘中学校の生徒たちが、ヒマワリの種を育て、福島県内の被災地に贈る活動に取り組んでいる。

「日本全国」をキーワードに、企業や個人、団体など、幅広い分野から、復興支援活動に取り組むことになった。その中心となるのは、福島県内に住む若手経営者を中心とした若手、有志、有志で構成されたNPO法人「福島復興・復興支援プロジェクト」だ。

2018年度の予定

- ### 8年目 伝承・伝達の年
- 3月 ひまわり甲子園2018全国大会開催!
 - 3月 2018年度 種販売開始(3/11より)
 - 3月 2018年度 福島県内に種配布開始(3/11より)
 - 4月 新書籍!ひまわりコミック発行予定
 - 6月 ゴッホ作「ひまわり」×福島ひまわり里親プロジェクト
 - 8月 「第69回全国植樹祭ふくしま2018」にて種配布
 - 8月 ひまわりウェディング2018 開催
 - 11月 ひまわり甲子園2017 信州北陸地区大会開催(11/3)
 - 12月 ひまわり復興祈念資料館(WEB版)の設置
 - 2019 3月 ひまわり甲子園2019 全国大会 開催予定

福島&全国の書店で販売中!

『ひまわりが咲くたびに “ふくしま” が輝いた!』

著者: NPO法人チームふくしま 文: 半田 真仁

全国25万人、小中高など1500の教育団体も参加する “福島ひまわり里親プロジェクト” 誕生秘話や感動の絆ストーリーが綴られています。

1冊 1,200円(税抜)



NHK、全国ネットのテレビ番組、新聞各紙で話題!

福島を復興に導いた、全国20万人が参加する “福島ひまわり里親プロジェクト”

福島大学災害ボランティアセンター 編 給本典夫 監修